

## 木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第 24 回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
日 時	平成 26 年 1 月 30 日 (木) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 40 分	場 所	木津川市役所第 2 北別館 2 階会議室
出席者  〔出席者…■〕 欠席者…□	<p>【学識経験者】  <input type="checkbox"/> 中川大委員（副会長）      ■ 大庭哲治委員（議長）</p> <p>【市民代表】  ■ 坂本佳津子委員    □ 関和香子委員      ■ 大村裕信委員  ■ 神野勝三郎委員    ■ 鶴岡由雄委員      ■ 坂本利正委員  ■ 久保恭子委員    □ 城野敏之委員</p> <p>【事業者】  ■ 寺嶋勤委員※代理：西出則明（西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社総務企画課課長代理）  ■ 森本耕司委員  ■ 川邊経恭委員※代理：橋本倫尚（奈良交通株式会社乗合事業部課長）  ■ 津田秀夫委員    □ 近藤智彦委員  ■ 筒井基好委員※代理：伊藤由夫（城南タクシー株式会社取締役）  ■ 梅田幹夫委員    □ 加藤隆委員  ■ 大西秀樹委員※代理：松石康志（奈良交通労働組合執行委員）</p> <p>【行政機関】  ■ 川合宏和委員※代理：酒井敏一（国土交通省近畿運輸局京都運輸支局運輸企画専門官）  <input type="checkbox"/> 池田広三委員  ■ 石橋博孝委員※代理：玉木秀幸（国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所調査課専門調査員）  <input type="checkbox"/> 湯瀬敏之委員    □ 今西克禎委員  ■ 滝清基委員※代理：吉水誠（京都府木津警察署交通課交通総務係長）  <input type="checkbox"/> 河井規子委員（会長）    □ 田中達男委員  <input type="checkbox"/> 藤林英和委員</p> <p>【オブザーバー】  <input type="checkbox"/> (近畿運輸局企画観光部交通企画課長) 加納陽之助</p>		
事務局	尾崎公室長、尾崎課長、奥田課長補佐、富井主任、藤本主事		
傍聴者	なし		
議 題	<p>1. 開会  2. 議事  (1) 協議事項  ①消費税率改定に伴う木津川市コミュニティバスの運賃について【資料 1】  ②木津川市コミュニティバスの愛称募集について【資料 2】  ③木津川市地域公共交通総合連携計画の更新について【資料 3】  ④きのつバス 分校橋停留所の移設について【資料 4】</p>		

	<p>(2) 報告事項</p> <p>①平成26年ダイヤ改正について</p> <p>②木津川市コミュニティバスの利用状況について【資料5】</p> <p>(3) その他</p> <p>①次回法定協議会の日程について</p> <p>②その他</p> <p>3. 閉会</p>
会議結果要旨	<p>1. 開会</p> <p>事務局より開会を宣言した。</p> <p>2. 議事</p> <p>運営内規に基づき、会議録の署名委員として、議長が森本耕司委員を指名した。</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>①消費税率改定に伴う木津川市コミュニティバスの運賃について 「資料1 消費税率改定に伴う木津川市コミュニティバスの運賃について」を用いて、消費税率改定に伴う木津川市コミュニティバスの運賃について事務局から説明があり、承認した。</p> <p>②木津川市コミュニティバスの愛称募集について 「資料2 木津川市コミュニティバスの愛称募集について」を用いて、木津川市コミュニティバスの愛称募集について事務局から説明があり、事務局にて再度、整理することとなった。</p> <p>③木津川市地域公共交通総合連携計画の更新について 「資料3 木津川市地域公共交通総合連携計画の更新について」を用いて、木津川市地域公共交通総合連携計画の更新について事務局から説明があり、承認した。</p> <p>④きのつバス 分校橋停留所の移設について 「資料4 きのつバス 分校橋停留所の移設について」を用いて、分校橋停留所の移設について事務局から説明があり、承認した。</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>①平成26年ダイヤ改正について 平成26年ダイヤ改正について、今年の3月はダイヤ改正を行わないとについて事務局から報告があった。</p> <p>②木津川市コミュニティバスの利用状況について 「資料5 コミュニティバス利用者数の推移」を用いて木津川市コミュニティバスの利用状況について事務局から報告があった。</p> <p>(3) その他</p> <p>①次回法定協議会の日程について 事務局が調整を行い、委員へ連絡することとした。</p> <p>3. 閉会</p>
会議経過要旨	<p>1. 開会</p> <p>会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>①消費税率改定に伴う木津川市コミュニティバスの運賃について</p>

### 【配布資料】

- ・資料1 消費税率改定に伴う木津川市コミュニティバスの運賃について

【主な意見・質疑等】(○…質疑・意見、●…質疑・意見に対する返答)

○一日フリー乗車券の販売金額も据置きとなるのか。

●一日フリー乗車券も据置きとさせていただく。

○消費税改定前と改定後それぞれの試算額が書かれているが、それぞれの分母は何か。

●平成24年度の収入実績である約5,100万円である。

○今年の消費税率改定に続き、来年にも再び消費税率が改定された場合、そのときに改めて協議を行うということか。

●来年以降に改めて消費税率が改定される場合は、本協議会にて協議させていただきたい。

○消費税率改定による市の負担は、これから実績額が算出されることになるが、事務局としては何を目安に、どの程度まで負担を許容するつもりなのか。

●本来であれば国の決定である消費税率の改訂に合わせ、運賃も改定するべきであるが、分かりやすい運賃設定としていることもあり、今回は運賃を据置くこととしたい。今後、消費税率が改定される際に、改めて協議いただきたい。

○次の消費税率改正が確定していないなか、市が負担をしていく状況で運賃改定を行う時期のめどは決めているのか。

●来年10月に改定されるとの話もきいているが、消費税率改定が確定された後に協議いただきたい。

○消費税が増税されるが、利用者を増やせば値上げをしなくて済むのか、コミュニティバスの特性を踏まえ、利用促進を図りながら運賃改定を検討していく必要があるのではないか。

●持続可能な公共交通を確保していくためには、利用しやすい運賃設定が必要である。しかし、利用されない方にとって見直しは当然といった意見が出てくることが予想される。様々な意見を踏まえ、運賃改定の必要性を改めて協議いただきたい。また、コミュニティバスの利用者数が増加すれば、運賃改定する必要がない訳ではない。

○運賃を上げることは、利用者数が減る危険性がある。実際、きのつバスでは運賃を改定したことにより利用者数が減っている。今回は運賃を改定せず、次回に改定することとされているため、その間に確実な利用促進をすることが重要である。また、市民に負担をさせるということもあり、説明責任を果たす意味でも利用促進は欠かせない。

### ②木津川市コミュニティバスの愛称募集について

### 【配布資料】

- ・資料2 木津川市コミュニティバスの愛称募集について

【主な意見・質疑等】(○…質疑・意見、●…質疑・意見に対する返答)

○木津川市は、合併して一つの市になった。今後、ダイヤや路線変更などを考慮すると、地域ごとに愛称を付ける必要があるとは思えない。もし木津町域を走る「きのつバス」の愛称をよしとするのならば、コミュニティバス全体の愛称

を「きのつバス」にすれば良い。

- 今回愛称を募集することにしたのは、加茂地域のデマンド型乗合タクシーを利用する際に、予約しづらいという声を聞いているためでもある。地域のバスに愛着を持ってもらい、広く認識いただくため愛称を募集することとした。「きのつバス」で統一するといった意見も、募集の中で反映していけるのでは考えている。
- 地域性を重視するのならば、学校でも愛称のアンケートを取るべき。この話題が児童生徒から親へ伝わり、利用促進にもつながる。教育機関を利用するのが一番良いと考える。
- 教育委員会と調整し、実現可能なら一つの手段として考慮したい。
- 学校MMとして、地域を巻き込むということは重要であり、公共交通の現状を知ってもらうには重要な方法として認知されている。可能であれば、是非検討してもらいたい。
- 「きのつバス」という愛称は、募集によって決まったのか。
- 運行当初は木津町循環バスという名称だったが、非常に堅苦しい名前であるとの意見があり、愛称を募集したところ、「きのつバス」が採用された。現在でも、非常に愛着を持っていただいていると認識している。
- 愛称を決める際には、利用者にとって分かりやすいというのが一番重要なことである。利用者の視点で考え、そのうえで地域ごとに愛称を付けるのであれば良いと考える。
- 加茂地域の乗合タクシーの利用状況は、前年と比較して非常に減少している。これは予約をする際、わかりづらいのが一因である。愛称を用いて予約できるようになれば、利用の促進につながると考える。使いやすい愛称は必要である。
- 全ての路線が一つの駅を起点としているのであれば、地域毎の愛称でも良いが、加茂地域の路線は、他の地域とつながっていないため地域毎に名前を付けるのは不自然である。木津川市全体の一体感を出すためにも、市内全体で一つの愛称にすべきである。また、将来的には、旧町それぞれの路線をつなげていくべきであると考えている。
- 予約電話を受ける際に、「加茂地域の乗合タクシー」と言われると、通常のタクシーとの区別がしづらい。わかりやすい愛称があれば、事業者としても予約を受けやすくなる。
- 木津川市コミュニティバスを全体に知らしめていくためには、まず統一した愛称を決め、必要ならば路線ごとに愛称を決めていくべきである。そうすれば一体感が出るのではないか。
- 今回のバスの愛称については、それぞれの地域ごとの特性を考慮し、個々に愛称を付ける方が良いと考える。最終的には一つの愛称に統一することも考えられるが、現段階では地域ごとが妥当であり、愛着を持ってもらうことで利用促進にもつながると考える。
- 加茂地域のデマンドタクシーと神童子線を乗ってみたが、予約の際に不便であった。やはり愛称を決めるのが良い。
- 例えば、京都市内において「子育てタクシー」と呼ばれるタクシーを走らせて いる。これを利用するには、電話で「子育てタクシーお願いします」と一声い

- えば良く、その便利の良さもあり、愛称が広く親しまれており、今では日本各地でこの愛称が用いられている。愛称に統一感があることは重要であり、親しみが湧いてくる。市で一体感を持たせるべく、統一した愛称を持つべきである。
- きのつバスについては、以前からこの愛称で運行しており、木津地域で走っていることを非常に周知されている。先行して付けたきのつバスと区別するためにも、地域ごとの愛称募集を提案した。また、乗合タクシーでは、利用者と事業者の意思疎通がうまくできていないということもあり、地域ごとに愛称を決めたい。全体的な愛称を決めるのは今後の課題としたい。
  - きのつバスという愛称は大変親しまれており、このまま使用する方が良い。きのつバスという愛称は全体の愛称として残し、個別に簡単な愛称を決めるのが良いと考える。
  - もう一度、事務局で検討し、提案させていただきたい。今後、学識者と相談し決めさせていただき、協議会で報告する方法も検討したい。
  - これまでの意見を踏まえ、事務局で再度検討していただきたい。

### ③木津川市地域公共交通総合連携計画の更新について

#### 【配布資料】

- ・資料3 木津川市地域公共交通総合連携計画の更新について

#### 【主な意見・質疑等】(○…質疑・意見、●…質疑・意見に対する返答)

- 観光に関するアンケートは考えているか。
- まずは市民が対象と考えている。観光客に特化したアンケートは考えていないが、結果的に対象者には、観光客が含まれると考えている。

### ④きのつバス 分校橋停留所の移設について

会議結果要旨のとおり。

#### (2) 報告事項

##### ①平成26年ダイヤ改正について

会議結果要旨のとおり。

##### ②木津川市コミュニティバスの利用状況について

○加茂路線は大幅な減少が見られるため、原因追及が必要である。行きは予約が容易であるが、帰りは難しい。一度、午前と午後それぞれの利用客数を調べるべきである。また、奥畠線が順調に伸びる理由も解明したい。さらに、利用者数が減少しているが、経費と合わせて検討することが重要だと考える。

○奥畠線、当尾線の利用増加は観光客の利用が増えている影響もある。

○利用者数の報告は、コミュニティバスの健康診断表ともいえる。利用者の使い勝手が悪いのか、周知が行き届いていないのかをしっかりと原因究明するとともに、着実に利用促進を図る必要がある。

○運行事業者として、デマンドの運行に慣れなかったこともあり、利用者にご迷惑をかけてしまった。しかし、徐々に改善され、利用客数も伸びてきている。これからも多くの方に利用いただけるよう努めていきたい。

○旧加茂町域のバスについて、「一人でも頼りにする人のため、ダイヤ通り走るバ

	<p>スは安心を運ぶ」といった記事が掲載されており、これは本協議会の核心をついているように思える。利用者数が何々といった問題も必要だが、いかに乗客数をJRなどに併せて増やしていくかに重きを置いてほしい。</p> <p>○加茂地域について、デマンドに切替えてから利用者が大幅に減少しているが、利用されなくなった方はどうされているのか。デマンド交通は順調に行っている地域もあり、今回の実績は想定よりも悪いように見える。これは、比較的喫緊の課題である。</p> <p>●利便性は悪くなるため、利用者数が減少することは想定していた。また、予約時間も1時間以内にできるか検証も行っている。バスを利用されなくなった方については、全く外出をしないとは考えがたく、タクシーや家族による送迎など、バス以外の移動手段を利用しているのではないかと考える。</p> <p>○アンケートについて、どれぐらいの回収率を望んでいるのか。大学等の調査に比べ、木津川市のアンケート回収率は低く思える。</p> <p>○アンケートの取り方によって回収率は変わる。配付型のアンケートは20%もあれば十分だといえる。より多くの方のご意見を頂けるような方法を取っていただきたい。</p> <p>○アンケートは広報に折り込むと思うが、広報が届いていない世帯はどうするのか。</p> <p>●前回の調査では、実際の利用者にアンケートを配布し、返送してもらったところ32%の方に回答いただけた。利用者アンケートは537枚、住民アンケートについては統計的にデータを集めることもあり、無作為抽出し、3200枚に配布し、39%の方に回答いただけた。今後は、デマンドに対する意見などの設問も作り、協議会で反映できるものは反映したい。</p> <p>○住民アンケートの回収率で、39%は高い回収率である。</p> <p>(3) その他</p> <p>①次回法定協議会の日程について 会議結果要旨のとおり。</p>
その他 特記事項	